

席の介護老人保健施設サニーヒル菅沢から、20年経過した施設の現状について、人件費・材料費の増加が経営を圧迫している。要介護度の高い認知症の入所者が増え、帰宅率が80%から20%まで低下しているとの報告があった。第2席の大阪府堺市医師会立訪問看護ステーションから、現在までのあゆみと今後の課題について、第3席の徳島市医師会から、地域包括支援センターの運営と現状の課題について、第4席の福岡市医師会在宅医療課から、市内に分散していた訪問看護ステーションを7カ所から3カ所に統合し、大規模化を図った。40～50%が医療保険適応者であり、大きく経営改善が図られたとの報告があった。

第1日目は、この分科会の後、全員懇親会が地元の花笠踊りなどのアトラクションと共に、にぎやかに行われた。

第2日目は9時より開始し、まず「県内共同利用施設および山形大学医学部との共同研究事業の紹介」が行われた。これは、文部科学省の研究補助に基づいたもので、生活様式、習慣と疾病を遺伝子学的因果関係について検診事業の中でデータを収集

し、取りまとめたものである。疾病率、治療予後について研究し、県内協力比率70%以上であったとの報告がなされた。

その後、3分科会の報告と共に全体討議が行われた。「医師会が地域包括支援センター事業へ積極的に取り組んでいくことの必要性」「認知症サポート医など認知症対策への取り組み」「弱者の味方としての日本医師会への期待」「地域支援病院のあり方に関する日本医師会の取り組み」「医師が介護保険に積極的に関わっていくことの必要性」など活発な意見交換が行われた。

今回の総会は、メインテーマに掲げた「地域社会に貢献する医師会共同利用施設」をまさに証明するものになった。いろいろな課題を抱えているが、医師会共同利用施設は地域医療を支える要になっていることを再認識することができ、山形県医師会の用意周到な準備とスムーズな運営と相まって、有意義な総会であった。

次期の総会は、神奈川県医師会の担当で2年後の平成25年8月31日（土）・9月1日（日）の両日、パシフィコ横浜で開催される予定。

北海道医報へのご投稿等について

◇広報委員会◇

北海道医師会では、会員の皆さまから「学術投稿」「会員のひろば」等各種原稿を下記要領にて募集しております。是非ともご投稿いただきたくお願い申し上げます。

なお、写真作品のご投稿につきましては、ホームページに「フォトギャラリー」を設けておりますので、ご応募ください。

投稿要領

1. 原稿の締切

毎月10日までにいただいたものは原則として翌月号に掲載となります。ただし、「会員のひろば」については、受付状況により掲載号を決定します。

できるだけメール等の電子メディアでお寄せください。

2. 原稿の体裁と字数制限

(1) 原則として横書きといたします。

(2) 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。

(3) 誤字、脱字、明らかな間違い等は広報委員会において訂正いたします。

(4) 1回の掲載紙面は、原則として2頁を限度とします。

医報1頁は約2,200文字です。ただし、タイトル、写真、図表等を含んでおりませんのでご考慮ください。

(5) 長文原稿および連載物は、広報委員会にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。

3. 原稿の訂正、返却

次の場合は、広報委員会の決定に基づき、執筆者に対し訂正を求めるか、または返却いたします。

(1) 特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容

(2) 匿名の投稿

(3) 本誌以外に既掲載のもの、あるいは投稿中のもの（二重投稿）

ただし、特に必要と認められる場合はこの限りではない

(4) その他掲載に支障がある内容

4. ホームページへの掲載

特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第一課
TEL 011-231-7661 FAX 011-252-3233
E-mail : ihou@m.dou.jp